

片倉城跡

【マップF4】

建保元年（1213）の和田合戦の行賞として大江広元が旧横山党所領を与えられ、それを継いだ広元の子孫（次男長井時広の系統とされる）が片倉城を築城し、後に北条氏により改修されたものと考えられる。城下を通る相州道（川越道）を抑える片倉城は、湯殿川と宇津貫川に挟まれた舌状台地を利用して築かれている。市民には公園として親しまれているが、非常に堅固な防御構造を持った城郭遺構である。



二の丸に比べて本丸は小さい



城の守護神である住吉神社は江戸時代に遷座された



広い芝生広場の二の丸は公園を訪れる親子連れなどでにぎわう



片倉城跡



二の丸を守る空堀は浅く
なってしまう往時の姿を
留めていない



尾根を断ち切る堀切が多用される



上下2段になっている本丸

浄福寺城跡

【マップC3】

浄福寺城跡は開発の手がほとんど入っていないために、戦国期の遺構が良好に保存されている。築城に関する記録はないが、観音堂の棟札から大石道俊・憲重父子が浄福寺城在城中に北条家の藤菊丸（後の氏照）を養子として受け入れたと考えられている。四方に広がる細尾根の堀切・切岸の加工や高低差を利用した防御など、明確な防衛構想を感じながら歩くことができる城跡である。



浄福寺城跡

細尾根の急傾斜を上がる寄せ
手には上方からの正面・側面
攻撃が待ち構える



東尾根の要所に築かれた曲輪
は防御の工夫が何重にも施さ
れている

